

地域とのつながり

「周りから、ボランティアの依頼など声をかけてもらえるようになった」と話す平岩さん。自ら地域行事に参加し、地域の方に困っていることがないか聞いていたこともありましたが、今では、地域行事のお手伝いなど声をかけてもらえるようになったそうです。地域行事に参加することで、地域に顔見知りが増え、利用者が社会に出た後の心のよりどころにもつながっています。

「誰かにとって記憶に残る人になれたことが嬉しい」

ある日、かつて就労支援を通して社会に出た方が、仕事着のまま突然AWひまわりを訪ねてきたことがあったそうです。「仕事がしんどくて、どうしていいかわからなくなった。そんな時に平岩さんの顔しか浮かばなかった。」その言葉を聞いた瞬間、胸の奥が熱くなったといいます。

「家族でも友人でもないのに、記憶に残る存在になれたことが嬉しかった」という平岩さん。支援の現場では、上手いかないことも多く、利用者との関わり方が正しいのか、悩むこともあります。それでも、このような瞬間に、これまでの関わり方は間違っていないかと思えるそうです。

「特別」ではなく「普通」の関わりを

平岩さんは、障がいの有無に関わらず、人として向き合う姿勢を大切にしてきました。「特別、何かやるのではなく、手伝ってほしいと言われたら手伝う。できないことはちゃんと理由を伝えて断る。それをお互いに話し合って決めるのが合理的配慮なのではないかと思う」と最後に語りました。

AWひまわり利用者さんの声

苦しい作業もあったけど、先輩のやり方を真似したり工夫して、今は苦手じゃなくなりました。
AWひまわりで過ごす中で大切だと気づいたことは、あいさつ。あいさつをちゃんとすれば第一印象が良くなると思います。

最初は大変だったけど、少しずつできるようになり、今は事業所内のどの仕事もできるようになりました。
保育園に行き子供たちと関わるなど、ボランティアにも積極的に参加しています。できることの幅が増え、やりがいを感じています。

みんなが綺麗な道を通れるようにという想いで雁宿駐車場の清掃をしています。事業所内の清掃をする際も、みんながすべったりしないようにという想いでやっています。
みんなに喜んでもらえるのが嬉しいです。

みんなに優しいまちに

令和6年4月1日から「合理的配慮」の提供が民間事業者にも義務化されました。

「合理的配慮」とは、障がいのある方から手助けを求められた時に、無理のない範囲で対応することです。これは、相手に特別なことをしてあげるのではなく、誰もが自分らしく生活できるよう、できる範囲でお互いに助け合うという考え方です。日常のちょっとした声掛けや工夫が、相手にとって大きな支えになることがあります。

例えば、こんな場面があります



車椅子を利用している方が施設を訪れた時、スロープのある入り口まで案内する



聴覚に障がいのある方には、筆談やタブレットを使って文字で伝える

障がいがあり、今悩んでいる方、困っている方へ まずは気軽に相談してください

障がいのある方やそのご家族等が地域で安心して生活できるよう、様々な相談に応じる窓口があります。

半田市障がい者相談支援センター ☎21-5585 FAX23-7745

開設日時 月曜～金曜日 ※年末年始(12月28日～1月4日)は休み
窓口相談：9時～17時15分 電話相談：8時30分～17時15分
(第3月曜日および火曜日は休みですが、電話・訪問の対応は可能です。)

相談方法 窓口、電話、FAX、Eメールのほか、訪問も行います。



▲詳細はこちら